

教授法

清川

日本語教育と国語教育

日本語学習の目的

- 1) 教養（高校大学などの選択第二外国語として・ポップカルチャーへの興味・伝統的文化への興味）
- 2) 日常会話（短期旅行会話）
- 3) 生活のための日本語
- 4) 学習 研究（留学生のためのアカデミックジャパニーズ）
- 5) ビジネスのための日本語
（介護福祉士・看護師候補生 技能実習生 特定技能制度 ）
- 6) 年少者（帰国子女・外国人児童生徒）

外国語教授法の歴史（「日本語教育への道しるべ」第1章）

- 1) 直接教授法
- 2) 文法訳読法（GTM） P.3
- 3) フォネティックメソッド
- 4) ナチュラルメソッド（グアン ベルリッツ） P.4-5
- 5) オーラルメソッド・意味を示すための5つの方法・学習の5段階 P.5
- 6) アーミーメソッド P.5
- 7) オーディオリンガルアプローチ P.6
・構造主義言語学・行動主義心理学・パターンプラクティス P.180
・ミニマルペア・ミムメモ練習
- 8) GDM
- 9) 認知学習法（コグニティブアプローチ）
- 10) ～13) ヒューマニスティックアプローチ
- 10) TPR P.8
- 11) サイレントウェイ P.9 12) CLL P.10
- 13) サジェストペディア P.10

- 14) ナチュラルアプローチ P.13 (クラッシュン第二言語習得理論)
- 15) CLT (コミュニケーションアプローチ) P.12
ロールプレイ P.62 16) VT法
- 17) SAPL
- 18) SLSP (Second Language of special poupose)
- 19) フォーカス オン フォーム (TBLT タスク中心教授法)
- 20) CBI (内容重視の指導法)
- 21) CLIL (内容言語統合型学習)

CEFR

JF スタンダード

生活者としての外国人に対する日本語

外国語教授法と日本語教育

第一言語習得研究 FLA

生得的 後天的 チョムスキー スキナー

ピアジェ トマセロ 習得順序 発達段階 臨界期仮説 マザリーズ

第二言語習得研究

1) 対照分析 言語転移

2) 誤用分析 エラーとミステイク P.65 中間言語 過剰般化 化石化

創造的構築仮説 フォリナートーク ティーチャートーク IRF

教室のインターアクション 提示質問 指示質問

ビリーフ研究 (BALLI) プラグマティックトランスファー

3) モニターモデル インターアクション仮説 アウトプット仮説

気づき仮説 処理可能性理論 (ピーネマン)

文化変容モデル (シューマン) 競合モデル

自動化理論 インターフェイスとノンインターフェイス

- タスク（タスクの真正性） フィードバック
- リキャストとプロンプト P.67
- 4) 第二言語学習に影響する要因 適正処遇交互作用（クロンバック）
動機付け理論
- 5) 言語学習ストラテジー
- 6) 状況論的学習理論

バイリンガリズム

カミンズ言語能力 BICS CALP

コースデザイン P.25

- 1) レディネス分析
- 2) ニーズ分析 目標言語調査
- 3) プレイスメントテスト
- 4) シラバスデザイン（構造 機能 概念 場面 話題 技能）
先行 後行 折衷
- 5) カリキュラムデザイン
- 6) 教育実施
- 7) 評価
- 8) カウンセリング
- 9) リフレクション（内省 振り返り）
アクションリサーチ P.36 COLT
- 10) 記録 ポートフォリオ

指導法

技能別指導法

レベル別指導 初級者 P.101-130（中上級は実践 III）

母語別指導

自律学習オートノミー

学習者中心主義

協働学習ピアラーニング

言語処理 言語理解

1) 記憶のシステム

ボックスモデル 処理水準モデル 記銘方略

記憶の体制化 短期記憶と長期記憶

手続き的記憶と宣言的記憶

エピソード記憶と意味記憶

記憶の忘却 転移適切性処理 ワーキングメモリー

2) スキーマ理論

スキーマとスクリプト

ボトムアップ処理とトップダウン処理

先行オーガナイザー

相互作用モデル

モニタリング

授業と ICT

e-learning

ブレンディッド・ラーニング

ハイフレックス型授業

同期型 非同期型オンライン授業

反転授業

Zoom Moodle